

# 5歳児 ほし組 保育指導案

指導者 内 田 祐

子どもの願いを明確化できるように、環境の再構成をし、はたらきかけていったことは、子どもが自身の願いを追求して遊んでいくことに有効であったか。

## 1 活動名 そうだ、こんどはこうしてみよう

## 2 7期（6月初旬～7月中旬）のねらい

- 自分の願いやめあてが実現するように、いろいろなことを考え、試しながら遊ぶ。
- 思いや考えを互いに伝え合ったり、手を貸し合ったりしながら遊んでいこうとする。
- 自然物や生き物に親しみをもって遊んだり、大切にしようとしたりする。

## 3 保育の構想

(1) 男児6名、女児7名のクラスである。進級時にクラス替えがあった。

自分がしたい遊びにすぐに向かい、どのようにしたいかという願いや遊びに必要なものを教師に伝えながら遊ぶ子どもが多い。特に、巧技台や大型積み木を組み合わせるなど、昨年度の年長がしていたことや、年長になって使うことができるようになった金属スコップなど新しい道具に興味をもって、積極的に遊びに取り入れている。マットをどうやって固定するか、スコップをどう使うと大きな石を掘りだせるかなど、友だちの様子を見ながら、うまくいく方法を自分なりに探している姿がある。また、竹登りの竹を組み合わせる、ブルーシートのテントを張るなど、子どもではできないことでも、アイディアを伝え、教師の手を借りながら遊ぼうとする姿もある。6期（4月上旬～5月下旬）では、面白そうなことを積極的に取り入れ、教師に願いを伝えながら遊ぶ姿が多かった。教師が一緒になって遊ぶ場面では、大勢の子どもたちが集まって一緒に遊んできた。

このように、願いをしっかりともち、自分たちで長時間遊びに向かう姿や、思いを友だちに伝えながら遊ぶ姿は5月3週より徐々に増えてきた。

(2) 上記のように、子どもの姿が徐々に変わってきたことから、6月初旬を期の変り目ととらえた。

7期で育てたい子どもの姿は、自分の願いやめあてをしっかりともち、できるだけ教師に頼らずに自分たちの力で実現しようとする姿である。子どもの力で実現しようとする過程で、どうすれば実現できるかを考え、試行錯誤することにより、遊びがより深まっていくと考える。さらに、友だちと互いに思いを伝え合い、イメージを共有して遊ぶ楽しさを感じることを大事にする。そのことが、遊びの広がりや、8期以降のクラス全体で向かう活動・生活にもつながっていくであろう。また、7期は、時期的に風や水が心地よく、植物や生き物との出会いも多いことから、植物や生き物との関わりが今まで以上に広がっていくと考える。以上のことから、7期ではねらいに対し次の内容を設定した。

- 自分の願いやめあてが実現するように、いろいろなことを考え、試しながら遊ぶ。
  - ・遊びがうまくいきそうな場所や使う道具などを探したり、道具の使い方を変えたりする。
  - ・何度も繰り返して楽しみ、できるようになるまで続けようとする。
- 思いや考えを互いに伝え合ったり、手を貸し合ったりしながら遊んでいこうとする。
  - ・願いを実現するために、友だちに声を掛け一緒に遊んだり助けを呼んだりする。
  - ・同じめあてをもつ友だちと一緒に遊ぶ中で、自分のイメージと違うことをしている友だちのことを受け入れる。

○自然物や生き物に親しみをもって遊んだり、大切にしようとしたりする。

- ・木や竹を組み合わせて基地にしたり、草花をごっこ遊びに利用したりする。
- ・生き物が遊べるような場や、生き物を捕まえた場所と同じような飼育環境を作る。

(3) 子どもたちが自分の願いやめあてを実現しようと遊びを追求し、自分の力で実現したという満足感を感じられるように、保育構想で述べている次の3点を大事にしていく。

1点目は、見取りを基に環境を再構成していくことである。例えば、コースを作って水を流す遊びでは、コースの最後まで水が流れるようにするために、どのようにすればよいか考えられるようにしていく。今までとは違う場所に道具を用意したり、他の使えそうな道具に目が向くように並べ替えたりしておくことなどが考えられる。

2点目は、「自分でみつけた遊び」と「共有する活動」「行事」において、子どもの願いがつながるようにすることである。7期では、「自分でみつけた遊び」での発見を伝えたり困っていることを相談したりする「共有する活動」を設定することで、友だちの遊びにも目を向けることや、子どもたちが互いに手を貸し合いながら遊びを進めていくきっかけにしていきたい。そうすることで、願いを新たにもつことやこれから先の遊びへの意欲も生まれると考える。一方、課外活動で泥団子の教室があるタイミングに合わせて、用意する土や子どもへの投げ掛け方を変えるなど、遊びと行事とのつながりも意識していく。

3点目は、遊びの「広がり」と「深まり」を意識したはたらきかけである。子どもが問いをもったとき、いろいろなことを試そうとする場合と、それについてじっくりと考えていく場合がある。7期では、じっくりと考えていく姿が増えると予想する。その時々で、同じ遊びをしている子どもたちが一緒に考えられるような言葉掛けをする。さらには、クラスのみみんなで課題を考える場をもつ。また、遊びの展開に応じて、新たなめあてになりそうなつぶやきを取り上げる。これらのようなはたらきかけが、さらなる遊びの追求を促すことになると考える。

#### 4 予想される主な遊びの展開と子どもの姿

|      | コース作り   | ごっこ遊び   | 竹や木に関して遊ぶ  | 生き物と遊ぶ   |
|------|---|---|--|--|
| 6月初旬 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「渡りやすいコースを作る」「川まで届くコースを作る」など、共通のめあてをもって遊ぶ姿が見られる。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所を移動しながらお家ごっこをすることがある。一緒にいてもそれぞれのイメージがある。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高いところまで登ろうと意識し、竹やカイツカイブキの上の方にまで登るようになる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が遊ぼうとする場所に生き物を連れて行き、生き物と一緒に遊ぶ。<br/>(この姿は7期の間ずっと続くと予想する)</li> </ul> |
| 6月中旬 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてが実現するまで、それぞれの子どもが、考えたことを繰り返し試す。友だちの考えを聞いて理解できるようになってくる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かがやったことを同じようにしたり、同じようなものを作ったりして、そこからイメージを膨らませて遊ぶ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで登ったことのないコースに挑戦しながら木に登ろうとする。足を掛ける竹やロープの場所など、登りやすくなるにはどうしたらよいか考えることも増える。センダンの木に登ろうとする姿も出てくる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕まえた生き物が遊べるように、飼育ケースに容器を入れるなど、飼育環境を自分なりに作る。</li> </ul>               |
| 6月下旬 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすればうまくいくか考えながら遊ぶ子どもが増える。泥団子を転がすなど、新しいことも試すようになる。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの子どもが自分の思いを言葉に表す。中心となる子どもが発言することが多い。</li> </ul>           |  |  |
| 7月   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース作りに必要なものを作って使ったり、友だちの考えを取り入れて作ったものを直したりする。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの子どもが自分の思いを言葉に表し、やり取りをしながら遊ぶことが増える。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで木や竹を組み合わせて、椅子や基地などを作ろうとする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長く飼おうと意識をし、生き物が弱らないように捕まえたり飼う場所を作ったりする。</li> </ul>                   |

## 5 本日の生活について

### (1) ねらい

様々なことを考え試したりその考えを言葉に表したりしながら、自分の願いを実現しようとする。

### (2) 予想される主な生活の展開

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p>9 : 15～9 : 25 登園</p> <p>9 : 25 自分でみつけた遊び</p>   | <p>◎期待する子どもの姿</p>  | <p>◎環境の構成と教師のはたらきかけ</p>  |
| <p>コース作り</p> <p>◎作りたいコースのイメージをはっきりともち、納得いくまで作り続ける。</p> <p>◎過去の経験や友だちの遊び方から、自分の遊びがうまくいく方法を取り入れる。</p>   | <p>◎より丁寧な関わりを必要とする子どもの姿</p>  | <p>生き物と遊ぶ</p> <p>◎捕まえたい生き物がどこにいるかを考えながら探し、生き物がいた場所と同じような飼育環境を作る。</p> |
| <p>形や長さなど、より具体的なイメージがもてるように材料を用意しておいたり話を聞き出したりする。子どもだけでは表現が無理な部分には手を貸していく。</p> <p>・どのようにしたらうまくいくのか考えられるように声を掛けたり、友だちの遊びを話題にして、その遊び方に目を向けられるようになりたりする。</p>                     | <p>竹や木に関って遊ぶ</p> <p>◎今で登ったことのない場所やコースに、繰り返し挑戦したり友だちの登り方を見て同じようにしてみたりする。</p>                              | <p>生き物と遊ぶ</p> <p>◎捕まえたい生き物がどこにいるかを考えながら探し、生き物がいた場所と同じような飼育環境を作る。</p> |
| <p>学級で共有する活動</p> <p>◎みんなに遊びを見せることで、より意欲をもつて遊んでいく。</p> <p>◎友だちの遊びでの気付きを聞き、同じように疑問をもつて試してみたり、それを自分の遊びにも取り入れることを思いついたりする。</p> <p>少し離れた所で様子をうかがったり、近くに来てみんなとは一緒にしようとしなかったりする。</p> | <p>ごっこ遊び</p> <p>◎ごっこ遊びに必要なものを伝え合い、友だちと一緒に遊びの場や物などを作る。</p> <p>◎一緒に遊ぶ友だち同士で役割やごっこ遊びの設定などを共有し、やりとりを楽しむ。</p> | <p>生き物と遊ぶ</p> <p>◎捕まえたい生き物がどこにいるかを考えながら探し、生き物がいた場所と同じような飼育環境を作る。</p> |
| <p>10 : 35頃 片付け</p> <p>◎次の日以降も遊びを続けようとし、どのように場を残しておくかを考えながら片付ける。</p>  | <p>遊びや木に関って遊ぶ</p> <p>◎今で登ったことのない場所やコースに、繰り返し挑戦したり友だちの登り方を見て同じようにしてみたりする。</p>                             | <p>生き物と遊ぶ</p> <p>◎捕まえたい生き物がどこにいるかを考えながら探し、生き物がいた場所と同じような飼育環境を作る。</p> |